

令和6年度  
事業計画書

社会福祉法人 凌雲堂

## 令和6年度社会福祉法人凌雲堂 運営方針

令和6年度は介護報酬と診療報酬の同時改定が行われる。「地域包括ケアシステムの深化・推進」が引き続き進められ、特に「医療と介護の連携の推進」が重視されている。その他にも、感染症や災害への対応力向上、L I F E（科学的介護情報システム）を活用した質の高い介護へのアプローチ、介護職員等の処遇改善、I C Tやロボット等を活用した生産性の向上等が大きなポイントとなっている。当法人では、報酬改定の内容も踏まえ、以下の点に重点的に取り組んでいきたい。

まず、ここ数年喫緊の課題となっており、将来も法人の運営に大きな影響を及ぼすことが想定される、人材不足への対応である。職員が働きやすい環境の整備、法人のP R強化等について継続して実施するとともに、I C T・介護ロボットを導入し、生産性の向上に積極的に取り組みたい。令和5年度中に様々な研修への参加や他施設への見学、デモの実施等を行っており、より有効に活用できる機種を選定し、業務の効率化、職員の負担軽減、ケアの質の向上を図っていく。

処遇改善については、これまで介護報酬による3つの処遇改善加算が一本化され、配分のルールも緩和された。求職者から選ばれ、職員の満足度も向上できるような処遇改善を行うとともに、勤務形態の見直しも検討していく。

医療との連携については、協力医療機関との定期的な会議や医療機関への情報提供、緊急時の対応方法の見直し等が義務付け、あるいは評価された。従来より密接な配置医師や協力医療機関との連携強化を図っていく。

感染症や災害への対応力向上については、B C P（業務継続計画）に基づき研修や訓練等を実施するとともに、定期的な見直しを行う。

令和6年度の事業については、前年度実績を踏まえ、引き続き収入面では予算に掲げる稼働率の確保及び各種加算の算定に努めるとともに、支出面においては不要不急の支出を抑えることで経費節減を図り、経営基盤の一層の確立に努めたい。

新型コロナウイルスが感染症法上の分類が5類に引き下げられたことから、ここ数年実施できていなかった地域との交流も、状況を見ながら再開したい。近隣の小中学校や民生・児童委員等との交流、職場体験学習や地域ボランティアの受け入れ、夏祭りなどの諸行事の開催等により地域との交流を進めるとともに、介護福祉士などの介護職養成実習の受け入れに協力する。

最後に、人材育成については、効果的な教育研修を行うとともに、一般財団法人潤和リハビリテーション振興財団と合同で「ケアシステム研究発表会」を実施し、事例研究等に取り組むことで職員のスキルアップや意識の向上を図り、利用者及びその家族から信頼され安心・安全を提供できる施設づくりを目指したい。

# 令和6年度 事業部門の計画

## 特別養護老人ホーム悠楽園

### 重点目標

新型コロナウイルス感染対策が緩和される中であるが、重症化リスクの高い方が多く生活している当施設では、引き続き感染状況を注視しながら感染防止に努める。また、深刻化する人材確保の課題に対し、ICT等テクノロジーの活用のための基盤整備を行い、多職種連携のもと、業務効率化、情報連携推進を図り魅力ある職場づくりを目指す。さらに、令和6年度介護報酬改定に伴う新たな加算取得については、必要に応じ体制整備等を図り、確実に予算計画を執行すると同時に経費削減にも努める。また、災害時のみならず、感染症など不測の事態などにおいても業務が滞ることなく業務継続計画（BCP）に沿って緊急時対応が行えるように体制を整備する。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	安定した 財務基盤	年間稼働率 件数実績  事業費削減率	入所：88.3名 短期：3.4名  対前年3%減	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設運営会議内容の充実</li> <li>削減状況の可視化（施設内公表） （水道光熱費・燃料費・介護用品費）</li> </ul>
顧客	選ばれるための サービス提供	外部紹介率	30%増	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ利活用推進</li> <li>パンフレット新規作成</li> <li>外部事業所との連携強化</li> <li>行事の活性化（ボランティア積極的受入）</li> <li>LIFE 推進（PDCA サイクル）</li> </ul>
業務 プロセス	生産性向上 業務効率化推進	時間外削減率	5%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会再編</li> <li>生産性向上委員会立ち上げ</li> <li>Wi-fi 環境整備実施</li> <li>有休休暇取得率アップ</li> <li>勤怠管理システム導入計画策定</li> <li>5S 活動実践</li> </ul>
学習と成長	教育体制 再構築	研修会開催数	全員6回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパス教育支援体制整備</li> <li>認知症介護基礎研修実施</li> <li>業務継続計画（災害・感染）に沿った研修及び訓練実施（年1回以上）</li> <li>虐待防止に関する研修会</li> <li>口腔衛生管理の定着化</li> <li>リスクマネジメント体制確立</li> <li>資格取得支援</li> </ul>

# 令和6年度 事業部門の計画

## 宮崎在宅介護支援センター

### 重点目標

利用者の意向を尊重し、可能な限り自立し、安心して日常生活を送ることができるようサービスの調整を行う。また、地域包括ケアシステムの構築に向け医療機関、他職種、地域等との連携を強化し、利用者が住み慣れた地域で生活を継続できる支援を行う。

また、感染症や災害発生時にも利用者に必要なサービスを安定的・継続的に提供できる体制を構築する。人材不足に対して、事業所内での教育、協力体制を構築することに併せ、業務効率化を図り魅力ある職場づくりを目指す。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	安定した財務管理	担当利用者の確保  職員の確保 (9名以上)	要介護1・2 205件/月 要介護3・4・5 105件/月 要支援1・2 55件/月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアプランデータ連携システムの活用でのペーパーレス等、コストカット</li> <li>BCPの策定やリスクマネジメントの確立</li> <li>教育体制や協力体制を構築し入職しやすい環境づくり(人材確保)</li> </ul>
顧客	利用者から選ばれる支援の提供	関係機関との連携強化	退院・退所加算 26件/年 通院時同行加算 12件/年 入院時連携加算 50件/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関との連携強化</li> <li>サービス提供事業所との信頼関係の構築</li> <li>自治体、地域包括支援センターとの連携強化</li> </ul>
業務プロセス	業務の効率化	利用者の確保	要介護者数 310件以上/月 (ケアマネ9名体制想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアプランデータ連携システムの活用</li> <li>テレビ電話等の機器を使ったモニタリングの実施</li> <li>ICT機器の活用</li> </ul>
学習と成長	資質向上のための学習機会の確保	事例検討会や研修への参加	年4回以上の履修	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤングケアラー、障害者、生活困窮者、難病患者等、他制度に関する知識等に関する事例検討会、研修等への参加</li> <li>BCP(防災・感染)研修への参加</li> <li>虐待防止に関する研修への参加</li> <li>各自の経験に沿った研修への参加</li> <li>他法人との合同事例研修会参加</li> </ul>

# 令和6年度 事業部門の計画

## 宮崎デイサービスセンター

### 重点目標

令和6年度介護報酬改定に伴う新たな加算を取得できるように積極的に体制整備を図り、同時に業務改善・効率化を推進する。また、ICT 機器の導入を視野に入れ、デジタル技術の活用や、新たなサービスの導入についても検討を行う。また、質の高いサービス提供が出来るよう職員の教育・育成を図り、職員の資質により提供サービスに格差が生じないよう各種マニュアルを随時見直し、職員の資質向上を図る。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	安定した財務管理	新たな加算取得	2つ以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴介助加算継続取得のための対応</li> <li>科学的介護推進体制加算の見直し</li> </ul>
		延べ利用人員	750人以上/月	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報活動</li> <li>利用率、欠席率の可視化</li> </ul>
		コスト削減率	5%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペーパーレス化推進</li> </ul>
顧客	選ばれるためのサービス提供	利用者満足度調査	回収率 90%	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査票作成</li> <li>結果の可視化と公表</li> </ul>
業務プロセス	業務効率化推進	時間外労働削減	月5時間以内（定期会議等除く）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT化（タブレットの導入）</li> <li>業務手順再構築</li> <li>役割分担の明確化</li> </ul>
学習と成長	人材育成と資質向上	研修等実施数	5件以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育カリキュラム作成</li> <li>入浴介助方法の見直し</li> <li>感染対策研修実施</li> <li>災害対策研修及び訓練実施</li> <li>高齢者虐待防止の推進</li> <li>身体拘束等の適正化の推進</li> <li>接遇教育</li> </ul>

# 令和6年度 事業部門の計画

## 介護ヘルパー派遣センター

### 重点目標

サービス提供責任者と登録ヘルパーの質を高め、利用者に対して適切なアセスメントを行い、個々のニーズに応じたサービスが効果的に提供できるように努める。特に感染症対策を十分に行い、安心・安全なサービス提供を行う。また人材確保に努め、困難ケースにも対応できる事業所を目指すと共にニーズに即した質の高いサービスを提供することで、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター及び、利用者やその家族から選ばれる事業所を目指す。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	利用者数実績 (サービス別回数)	利用者数 180名/月 平均の確保	(サービス別回数) 月平均 身体介護：410回 身体生活：370回 生活援助：185回 保険外：35回	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体介護の回数増加 (自立支援に向けたサービス)</li> <li>保険外サービスの充実化</li> <li>ケアプランデータ連携システムの活用(ペーパーレス、時間外手当カット)</li> </ul>
顧客	安定的な利用者確保	関係機関との連携	要支援1・2：80名 介護1～5：100名 保険外：20名	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携</li> <li>居宅介護支援事業所等へ利用者の情報交換を随時行い信頼関係を築く(新規顧客の開拓)</li> </ul>
業務プロセス	業務効率化推進  人材確保対策	ICT活用  雇用形態整備(ヘルパー)	雇用契約、労働条件の確認  業務内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアパレット導入</li> <li>ノートパソコン・スマートホンの活用</li> <li>フレックスタイム導入検討</li> </ul>
学習と成長	教育体制再構築	研修会開催数	5件以上(年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録ヘルパー研修会開催</li> <li>サービス提供責任者スキルアップ研修会開催</li> <li>BCP研修参加</li> </ul>

# 令和6年度 事業部門の計画

## 特別養護老人ホームしらふじ

### 重点目標

しらふじでは、生産性向上委員会を立ち上げ、「働きやすい職場環境」「辞めない職場環境」を目指し、業務負担軽減策を協議しながら、様々な取組を行っている。その結果、効率性や時間外勤務削減など、わずかであるが確実に成果に表れてきており、同時に職員の意識変化も認めるようになってきている。今後も、介護職員の確保を最優先課題として、同時に勤務体制の整備「3交代⇒2交代への移行」、時間外勤務の削減を図り、ワークライフバランスの充実が図られることにも取組んでいきたい。また、ICTを介護現場のインフラとして積極的に導入し、さらなる生産性の向上を目指しながら、多様化する介護ニーズに的確に対応していきたい。また、建物に関して、共用棟、住居棟の外壁の老朽化が著しいため、4か年計画で順次、整備改修を行ってきたい。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	安定した財務基盤	稼働率	入所：51.3名 短期：4.9名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用対象者の確保</li> <li>・加算追加取得 生産性向上推進体制加算(I)他</li> <li>・看取りの推奨</li> <li>・退所から入所までの期間の短縮</li> </ul>
	収益性向上	費用削減	500万円減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コストの見直し</li> <li>・時間外勤務の削減</li> </ul>
顧客	利用者 満足度向上	利用者 満足度	満足 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者満足度調査の実施</li> </ul>
業務 プロセス	サービスの質向上	人財確保	介護職 5人採用	3交代制から2交代制への転換
	業務効率化推進	時間外 削減率	10%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護記録システムの更新</li> <li>・ICT、介護ロボットの有効活用 検討</li> <li>・介護ロボット等機器の導入検討</li> </ul>
学習と成長	人財の定着	離職率	離職率 10%以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人教育の見直し</li> <li>・1on1 ミーティング</li> <li>・介護生産性向上委員会の開催</li> </ul>

# 令和6年度 事業部門の計画

## デイサービスしらふじ

### 重点目標

新型コロナウイルス感染症は5類感染症移行したが、感染対策徹底は継続しつつ、地域社会との連携を強化し、地域包括ケアシステムの一部としての役割を果たしていく。また、リハビリ特化型事業所と同様の訓練機器を導入し、より質の高い個別機能訓練、入浴とレスパイトもできる事業所としての強みを活かした差別化を図り利用者獲得を目指す。さらには、運営の安定と介護人材を確保するため、人員配分の最適化、DX推進を行い、現場目線での活用方法を検討し実践・改善を繰り返し行い事業所独自の業務システムを構築する。最後に、令和6年度介護報酬改定に伴う新たな加算の取得を目指し検討を行う。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	安定した財務基盤	利用者数	最低1日平均20名	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得（送迎範囲の拡大）</li> <li>月の稼働状況の分析</li> <li>居宅支援事業との信頼関係構築</li> </ul>
顧客	利用者満足度向上	満足度	高評価70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者満足度調査実施</li> <li>調査結果分析及び公表</li> <li>個別ニーズへの対応強化</li> </ul>
		ADL 利得	平均値 2以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練機器の更新</li> <li>個別機能訓練（I）口の取得</li> </ul>
業務 プロセス	業務効率化 生産性向上	時間外削減	月7時間 以内	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務プロセスの見直し</li> <li>ITツールの導入</li> </ul>
学習と成長	人財の定着	離職率	5%以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な職員の面談の実施</li> </ul>
	スキルアップ	研修 開催	月1回 開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修計画の立案と実施（法定研修含）</li> </ul>



# 令和6年度 事業部門の計画

## 養護盲老人ホーム生目幸明荘

### 重点目標

新型コロナウイルス感染症対策により、直接交流ができなかった、家族・地域住民・ボランティア・視覚障害者の方々との交流を再開し、地域に親しまれる施設として地域貢献に努める。

入所者の生活が継続できるよう業務継続計画（感染症・自然災害）に沿った訓練及び研修（年間2回）を行い有事に備える。また、介護生産性向上のための介護ロボット等の導入検討や業務改善を図り、利用者及び職員の満足度を高める。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	安定した 財務基盤	年間稼働率 件数実績  事業費削減率	入所 53.3名 短期 1.26名  3%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町村の障害福祉課、居宅介護支援事業所との連携強化</li> <li>入所者処遇特別加算（措置）</li> <li>管理費特別加算（措置）</li> <li>加算の積極的取得</li> <li>サービス提供体制加算（I）（介護）</li> <li>ADL維持等加算（I）（介護）</li> <li>水道光熱費・電気料金</li> </ul>
顧客	入所待機者 確保	待機者数	年間4名	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内各市町村の障害福祉課、地域包括支援センターとの連携強化</li> <li>眼科への広報活動</li> <li>ホームページ利活用推進</li> <li>視覚障害者協会との交流</li> </ul>
業務 プロセス	業務効率化 推進	時間外削減率	5%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営、生産性向上委員会立ち上げ</li> <li>介護ロボット導入検討</li> <li>LIFE提出（年間4回）フィードバック資料の検討</li> </ul>
学習と成長	教育体制 再構築	研修会開催数	必要法定研修 4回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症介護基礎研修実施</li> <li>業務継続計画（災害・感染）に沿った研修及び訓練実施（年2回以上）</li> <li>虐待防止・身体拘束に関する研修会</li> <li>資格取得支援</li> </ul>

# 令和6年度 事業部門の計画

## 認知症高齢者グループホーム悠悠

### 重点目標

目標稼働率 97%以上を確保し、異常の早期発見、早期治療により入院者を減らすよう努める。また、新規入所がスムーズに行われるように、待機者確保のために地域のケアマネジャー等との連携を密にする。また、入所者が安心して生活ができるように感染症予防対策を引き続き徹底し、ご家族との交流の機会などが盛んになるように、ご家族の面会促進および行事への参加などを促していく。さらに、科学的根拠に基づいたサービスを提供し、評価・改善を繰り返すことで質の高いケアを提供するとともに、介護生産性向上を図るため、職場環境改善および業務の改善を図り、働きやすい職場環境を構築し、離職防止、利用者・家族満足度を高めるようにする。また、災害、感染症など不測の事態などにおいても業務が滞ることなく業務継続計画（BCP）に沿って緊急時対応が行えるように教育、訓練を実施する。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	安定した 財務基盤	年間稼働率 件数実績  事業費削減率	入所 8.8名  対前年 1%減	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設運営会議内容の充実</li> <li>入院、空き日の縮小</li> <li>削減状況の可視化 (水道光熱費・燃料費)</li> </ul>
顧客	認知症者の サービス提供	待機者 紹介率	10%増	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部事業所との連携強化</li> <li>ホームページ利用活用推進</li> <li>LIFE 推進 (PDCA サイクル)</li> </ul>
業務 プロセス	業務効率化 推進	有休休暇 取得率	2%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい環境整備</li> <li>有休休暇取得率アップ</li> </ul>
学習と成長	教育体制 再構築	研修会開催数	月 2 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症介護基礎研修実施</li> <li>業務継続計画（災害・感染）に沿った研修及び訓練実施（年1回以上）</li> <li>虐待防止に関する研修会</li> <li>感染症・食中毒研修の予防及びまん延防止に関する研修</li> <li>身体拘束の排除の為の取り組みに関する研修</li> </ul>

# 令和6年度 事業部門の計画

## 宮崎市生目・小松台地区地域包括支援センター

重点目標				
<p>高齢者の介護予防や健康づくりを支援し、住み慣れた地域で安心して生活ができるために「切れ目ない在宅支援の充実」と「地域に根ざす自立支援の充実」など地域包括ケアシステムの構築を図る。また、各種団体と連携が図れるよう、住民同士の支え合う仕組みづくり構築に向けて意識を高め実施する。感染や災害等に備え、業務継続計画に沿って行動できる体制づくりを行う。</p>				
視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	地域の実情に応じた事業の推進	①基本事業(受託収入) ②ケアプラン件数 ③住宅改修理由書作成 ④実習協力	① 相談延件数：2,700件 相談実人数：500件 ② 作成数：150件/月 初回加算：8件/月 委託連携加算：4件/月 ③ 20件/年 ④ 3学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合相談支援業務</li> <li>権利擁護業務</li> <li>包括的・継続的ケアマネジメント支援業務</li> <li>介護予防ケアマネジメント及び自立支援型ケアマネジメント業務、介護予防・日常生活支援総合事業</li> <li>実習受け入れ実施</li> </ul>
顧客	情報収集・情報発信体制の充実	地域包括ケアシステム構築	地域行事等参加 30回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種協働による地域包括支援ネットワーク構築</li> <li>地域行事参加及び実態把握</li> <li>成年後見人制度の利用促進</li> <li>認知症理解の啓発活動</li> <li>地域まちづくり委員会参加</li> </ul>
業務プロセス	情報共有の徹底	事業所内の情報共有・チーム力の強化	ケースの概要を共有し、担当者不在の場合や携帯当番時にも対応できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝礼内報告徹底</li> <li>高齢者の生活の質向上のためのケアマネジメント実施</li> <li>社会資源調査及び活用</li> </ul>
	感染対策の継続	感染対策強化	感染予防徹底。感染したとしても感染後の対応が速やかにできる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の手指消毒・マスク着用</li> <li>出勤時の体温測定を徹底</li> <li>BCP計画周知実行</li> </ul>
	ICT化による業務効率化推進	時間外削減率	3%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット活用</li> <li>ICTを活用し、事業所内で情報共有</li> <li>オンライン研修及び打ち合わせ</li> </ul>
学習と成長	教育体制充実	研修会参加数	全員 5回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>市役所主催研修会参加</li> <li>研修及び訓練実施</li> <li>法人委員会活動に参加</li> <li>資格取得支援</li> <li>介護支援専門員の後方支援</li> </ul>

# 令和6年度 事業部門の計画

## 宮崎市大塚台・生目台地区地域包括支援センター

### 重点目標

認知症や精神疾患のある高齢者等への対応について、家族や地域住民が理解を深められるよう出前講座の開催や広報誌の発行に努める。また、ICTを効果的に活用するなどして業務の効率化に努める。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	①基本事業(受託収入) ②介護報酬(ケアプラン作成) ③住宅改修理由書作成	①予算達成 ②年間作成件数実績 ③同上	①2,948万円以上 ②作成数：110件/月 初回加算：60件 委託連携加算：12件 ③12件	・地域の実情に応じた事業の推進
顧客	①オレンジカフェ大塚台 ②出前講座 ③認知症サポーター養成講座	①参加人員の安定 ②開催回数 ③同上	①7名/月 ②5回/年 ③2回/年	・高齢者の実態把握 ・地域住民への周知(広報誌の作成と配布、講座の開催など)
業務プロセス	事業所内の情報共有・チーム力の強化	円滑な業務遂行	所内での「報告・連絡・相談」の徹底 担当者不在時の対応	・朝礼やミーティングを活用した情報共有の徹底
	BCP(業務継続計画)の強化	活用可能な計画の策定	研修：1回/年 訓練：4回/年	・有事を意識し、日頃の業務にあたる ・業務の優先順位の判断
	感染対策強化	感染対策の徹底	感染拡大防止	・感染症対策委員会の継続 ・対応マニュアルの活用 ・感染対策の継続(手指消毒、マスク着用、出勤時の体温測定など)
	業務効率化推進	ICTの活用	時間外勤務の削減	・ICT化の推進(タブレットやスマートフォンの活用)
学習と成長	教育体制再構築	研修参加回数	全員3回/年	・学習機会の確保と資質向上

# 令和6年度 事業部門の計画

## 宮崎市認知症地域支援推進事業

### 重点目標

認知症の人が住み慣れた地域で生活を続けられるよう、認知症の容態の変化に応じて、必要な医療・介護等が有機的に連携したネットワークが形成でき、認知症の人への支援を効果的に行うことができるよう取り組む。このため、①認知症の人や家族への相談支援、②認知症初期集中支援チームへの情報提供・対応依頼、③医療や介護、地域の支援機関間の連携支援、④地域包括支援センター職員に対する助言・アドバイス、⑤認知症カフェの開催及び支援、⑥その他、認知症に関する事業を実施する。

視点	戦略目標	KPI (指標)	目標値	アクションプラン
財務	適正な予算執行	予算内での運営	6,260,000 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーレス化 (電子メール、グループウェア等の利用)</li> <li>・WEBでの会議実施・研修参加</li> </ul>
顧客	業務委託に応じた事業の推進	相談及びケース会議数	20%増 (前年比)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人と家族の会との連携</li> <li>・認知症介護指導者との連携</li> <li>・若年性コーディネイターとの連携</li> <li>・医療機関との連携</li> <li>・介護事業者との連携</li> <li>・地域包括支援センターとの連携</li> <li>・行政機関(県・市)との連携</li> </ul>
業務プロセス	外部機関との連携力強化	関係機関との連携数	20%増 (前年比)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人と家族の会との連携</li> <li>・認知症介護指導者との連携</li> <li>・若年性コーディネイターとの連携</li> <li>・医療機関との連携</li> <li>・介護事業者との連携</li> <li>・地域包括支援センターとの連携</li> <li>・行政機関(県・市)との連携</li> </ul>
学習と成長	学習機会の確保による資質の向上	研修会の開催及び参加数	10回以上/年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症介護教室(開催)</li> <li>・多職種協働研修(開催)</li> <li>・認知症推進員現任研修(参加)</li> <li>・認知症の人と家族の会研修(参加)</li> <li>・若年性認知症研修(参加)</li> <li>・成年後見制度研修(参加)</li> <li>・地域づくりに関する研修(参加)</li> </ul>